

テーマ

3班合同公開シンポジウム

「難病・希少疾患を 理解し克服する」

2月 平成23年
27日(日)
午前11時～午後4時半



【会 場】 帝京大学講堂

本部棟4階・第1会議室

住所: 東京都板橋区加賀2丁目11-1

電話: 03-3964-1211 (代表)

内線1494 (小児科遺伝代謝研究室)

【定 員】 100名

事前申し込みが必要です

下記宛てにFAXでお申し込み下さい

FAX: 03-3579-8212

帝京大学小児科: 厚生労働省難治性疾患
合同シンポジウム宛て

【参加費】 無料



地図 (<http://www.teikyo-u.ac.jp/hospital/guidance/map/index.html>)

【主催】

・Menkes病・occipital horn症候群の実態調査、早期診断基準確立、治療法開発 (研究代表 帝京大学 教授 児玉浩子)

・小児神経伝達物質病の診断基準の作成と新しい治療法の開発に関する研究 (研究代表 大阪市立大学 教授 新宅治夫)

・Aicardi-Goutières症候群等のピオブテリン代謝異常を伴う疾患の診断方法確立および治療法開発のための横断的研究 (研究代表 東京工業大学 教授 一瀬 宏)

3班合同公開シンポジウム 「難病・希少疾患を理解し克服する」

【テーマ】 難病・希少疾患の理解と克服

- (1) Menkes病・occipital horn症候群の調査、診断と治療
- (2) 小児神経伝達物質病の診断と治療
- (3) 遺伝性ジストニアなどビオプテリン代謝異常を伴う疾患の診断と治療
- (4) 難病・希少疾患の家族からの要望



11:00	開場	開会の辞:児玉 浩子(帝京大学医学部小児科 教授)
11:05	第1部	児玉班 座長 児玉 浩子(帝京大学医学部小児科 教授) ① 難治性疾患克服事業「Menkes病・occipital horn症候群の発症頻度、早期診断法、治療法開発」の意義 演者:児玉 浩子(帝京大学医学部小児科) ② Menkes病・occipital horn症候群の実態調査報告 演者:藤澤 千恵(帝京大学医学部小児科) ③ Menkes病モデルマウスでの新規治療の検討報告 演者: Wattanaporn Bhadrprasit(帝京大学医学部小児科) ④ Menkes病の新規治療の治療効果とmicroPETを用いた分子イメージングの研究 演者:武田 泰輔(大阪市立大学医学部小児科学) ⑤ Menkes病・occipital horn症候群の新規治療の効果・問題点 演者:小川 英伸(帝京大学医学部小児科)
12:20		昼食
13:20	第2部	新宅班 座長 新宅 治夫(大阪市立大学医学部小児科学 教授) ① 難治性疾患克服研究事業における小児神経伝達物質病の戦略的意義 「世界に先駆けた日本発の革新的医薬品の創出を目指して」 演者:新宅 治夫(大阪市立大学医学部小児科学) ② 瀬川病の病態におけるドーパミンとセロトニンの役割 「発達期における脳のブテリジン代謝の役割」 演者:瀬川 昌也(瀬川小児神経クリニック) ③ AADC欠損症の臨床症状 「先天性脳内ドーパミンとセロトニン欠乏による特異症状」 演者:加藤 光広(山形大学医学部小児科) ④ SSADH欠損症の臨床症状 「神経伝達物質GABAの異常による発達脳の障害」 演者:夏目 淳(名古屋大学医学部小児科)
14:20		

14:20	第3部	一瀬班 座長 一瀬 宏(東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授) ① ジストニアの分類と治療の現状について 演者:長谷川 一子(国立病院機構相模原病院) 豊島 至(秋田大学医学部医学教育センター) ② モデルマウスから神経活動を記録することによりジストニアの発症機構を解析する 演者:南部 篤(自然科学研究機構生理学研究所) ③ ビオプテリン代謝異常モデルマウスを用いたジストニア発症機構の研究 演者:一瀬 宏(東京工業大学大学院生命理工学研究科)
15:20		休憩
15:30	第4部	患者家族会の要望 座長 山田 章子(小児神経伝達物質病家族会 代表) ① AADC欠損症 : 山田 章子(東京) ② SSADH欠損症: 久保田 正代(千葉) ③ メンケス病 : 田中 智次(大阪)
16:00		第5部 総合討論 司会 新宅 治夫(大阪市立大学医学部小児科学 教授)
16:20	閉会	閉会の辞:一瀬 宏(東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授)
16:30		

memo